

令和 6 年 6 月 2 5 日

大阪市長 横山 英幸 様

地方独立行政法人天王寺動物園
理事長 山中 諄

令和 5 年度の業務実績にかかる自己評価について

令和 5 年度の業務について自己評価を行いましたので、成果や課題などについて、以下のとおり概要を報告します。

【前提】

- 動物園の業務を以下の 3 つの分野に分類し、それぞれ中期目標に示されたあるべき姿を以下のとおり整理した。

分野	あるべき姿（中期目標抜粋）
1 動物園の本来事業	展示動物の充実
	飼育技術の高度化
	種の保存
	施設の整備・適正な維持管理
	来園者の行動変容を促す教育活動
	調査研究の推進
2 動物園の魅力向上	魅力発信の強化
	来園者サービスの充実
3 経営・組織・運営	機動的かつ柔軟な組織体制
	人材の確保・育成
	業務の効率化
	事故の未然防止・迅速な対応
	自己収入の確保
	独法の優位性を活かした経費節減

- 分野ごとの中期目標で示されている姿に近づくべく、努力した点、成果の上がった点、今後の課題などを以下に示す。

1 動物園の本来事業について

① 展示動物の充実

【努力した点や成果】

- コレクション計画や JAZA の各種繁殖計画に基づき、導入を図る動物の交渉に取り組んだ結果、ナベヅル、ジャガー、フンボルトペンギン、チンパンジー、レッサースローリスなどの導入ができた。

【課題】

- 新規希少動物の導入に関しては、引き続き取り組んでいく必要がある。

② 飼育技術の高度化

【努力した点や成果】

- JAZA の生物多様性委員会、安全対策委員会、総務委員会、教育普及委員会においてのべ 10 名が種別管理者、専門技術員もしくは部員としての受嘱を継続し、活動に参加する中で、ヨウスコウワニやホッキョクグマ、クロサイなど多くの種における飼育管理に関する新たな知見を得た。
- 飼育技師試験において、飼育技師（一般）が新たに 3 名合格、飼育技師（上級）についても新たに 1 名が合格した。

【課題】

- JAZA の委員会での活動内容や得た知見について法人内で幅広く共有し、日々の飼育作業における安全性向上や動物福祉の向上に明らかな効果が得られるレベルまで反映・浸透させていく必要がある。
- 飼育技師試験においてあらたな合格者を継続的に輩出し、飼育現場全体での技能レベルアップにつなげる必要がある。

③ 種の保存

【努力した点や成果】

- 繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントに基づき、展示場の改善、餌の見直しに取り組んだ結果、9 年ぶりにフラミンゴ（チリーフラミンゴ、ベニイロフラミンゴ）の繁殖に成功した。
- 10 月に開催した（公社）日本動物園水族館協会の第 23 回種保存会議において、開催園としての役割を果たすとともに、4 年ぶりとなる対面での開催により種の保存にかかる情報収集や他園館の方々とのネットワーク構築等有意義な成果を得ることができた。また、一般向けのシンポジウムについても会場がほぼ満員になるほどの参加があり、動物園の種の保存の取組みを知っていただくよい機会となった。
- 国内で 2 園目となるヨウスコウワニの繁殖に成功し、第 33 回日本動物園水族館

両生爬虫類会議において、この間の取組みについて発表し、知見の共有を図った。

【課題】

- 他の繁殖推進種についても繁殖につながるよう、チェックポイントに基づいた取組みを継続していく必要がある。
- 令和4年度、種の保存への取組みとしてクラウドファンディングによりアイファアの改修を実施し、保全につながる環境整備を行ったことを受け、大阪府産ニホンイシガメの繁殖計画を作成したが、繁殖にも取り組みつつ、生息域内保全につながる啓発活動を継続していく必要がある。

④ 施設の整備・適正な維持管理

【努力した点や成果】

- 令和4年度に発注した第1期リニューアル工事について、来園者の安全対策に配慮しながら着実に工事を進め、新施設「鳥のセカイ」をオープンさせることができた。
- 今後、獣舎の整備に伴って使用水量の増加が見込まれることから、水道使用量の削減に向けたマーケット・サウンディング（市場調査）を実施した。調査では、昨今の資材・人件費高騰等によるイニシャルコストが上昇していることから、現時点では経費削減に至る結果とはならなかった。

【課題】

- 第1期リニューアル工事は令和7年度までの大規模な工事であるが、昨今の物価上昇による工事価格の上昇が懸念されるなど、今後も予算面や工程面でのリスク管理が不可欠である。

⑤ 来園者の行動変容を促す教育活動

【努力した点や成果】

- ペンギンパーク&アシカワーフにおいて、令和5年度当初のオープン以降、「おやつタイム・ごはんタイム」の実施方法を検討し、水中での採餌行動が観察可能となる施設構造も活用し、教育的観点からの解説を継続して実施している。
- また11月に新たにオープンした「鳥のセカイ」では、学名札に合わせて、温帯や熱帯雨林、乾燥地帯など様々な環境に適応してきた鳥たちの生態や暮らしに関する豆知識を記載したパネルや鳥の体の仕組みや繁殖に関する説明を記載した大型パネルを設置し、来園者の興味だけではなく教育効果を高める工夫をした。

【課題】

- ペンギンパーク&アシカワーフの「おやつタイム・ごはんタイム」についてガ

イド内容も安定し、アンケートでも概ね高い効果を得ているが、今後はさらに行動変容に繋げるような施策、およびアンケートでも来園者の行動変容がうかがい知れるような項目を設けるなど、結果としての行動変容がより明確になるよう工夫する必要がある。

⑥ 調査研究の推進

【努力した点や成果】

- 令和4年度オープンした「ふれんどしっふガーデン」における運用方針やそれに基づく取組みについて論文投稿した結果、「ふれあい施設の移転に伴う、動物福祉水準の維持・向上を徹底した方針への転換」が日本動物園水族館雑誌、第65巻第2号（2023年9月）に掲載された。論文化することにより、学術的な価値が付与され、天王寺動物園のプレゼンス向上につながったと考える。
- 飼育各班で班として取り組むテーマを決め、研究を始めた。

【課題】

- 研究を発表や論文等の形で出すまでには一定期間が必要となり、すぐに成果が得られない場合もある。また必ずしもプラスの成果が出るとは限らないため、継続した取組みが必要である。

2 動物園の魅力向上について

【努力した点や成果】

- これまで実施してきた関係企業等とのイベントを継続実施するだけでなく、新規イベントも多数企画し、多くの来園者に楽しみながら学んでもらうことができた。
- 次に、来園者満足度向上の取組みとして、キャッシュレス決済の運用を開始(令和5年3月)した結果、利便性が高められたほか、顔出しパネルの再設置やカバブロンズ像周辺環境の整備を行い、ワクワク感を創出することができた。
- また、安全快適に観覧いただけるように園路の段差解消のための補修を実施したほか、可動式スプリンクラーを設置し暑さ対策を行った。
- さらに、ファンクラブ会員の増加及びリピーターを増やすため、ペンギンパーク&アシカワーフの内覧会招待や、イベントにおけるファンクラブ枠の設置を行ったほか、バックヤードツアーのコースにおいて初めての獣舎を設定することで内容を充実させることができた。

【課題】

- 園内工事に伴い、園路・獣舎等の案内を頻繁に変更する必要がある、来園者から分かりにくいところのご意見が多く寄せられているところである。園内マップ、園内看板、ホームページをこれまで以上に迅速に変更していく必要がある。

3 経営・組織・運営について

【努力した点や成果】

- 収入の確保については、入園者数を増やし入園料収入を増やすため、新施設オープンに際してのイベント企画や既存施設も含めた園内の魅力について積極的に情報発信を行った結果、令和5年度の目標を達成することができた。
- 今年度も近隣商業施設等との連携割引を継続して実施するほか、前売り入園引換券を利用した大口の企業利用もあり、新たな客層の取り込みに繋げることができた。
- 新たなオリジナルグッズの開発に努め、法人の意見を反映させた結果、新規オリジナルグッズを増やし、収入の増につなげることができた。
- 10月に発生したチンパンジー逸走事故後すぐに獣舎の安全点検を行ったほか、非常時における対応を強化すべく、「猛獣脱出防止及び対策マニュアル」及び「災害対策マニュアル」を改訂した。

【課題】

- 今後新たなクラウドファンディングに取り組むなど、入園料外収入の確保に向けた取組みを行う必要がある。
- 頑張った職員・成果を上げた職員にインセンティブが働く仕組みの構築を行う必要がある。
- チンパンジーの逸走事故はあってはならないことであるが、その後の対応については来園者の避難誘導をスムーズに行うことができた点など、日頃の訓練等が活かされた面もあった。今後は事故を風化させることなく継続して再発防止について取り組まなければならない。
- また、再発防止に向けた取組みとして、JAZAの安全対策委員を外部講師として招き、猛獣脱出に関する安全管理研修を実施した。今後も飼育動物逸走の防止、地震や風水害の発生など非常事態発生への対策についてはハード面、ソフト面両面からの対策を講じ、来園者および地域住民の安全を守ることを最優先事項として取り組む必要がある。